

「飛行機雲の研究 (3)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

先日の日曜日、高崎市の郊外で、見事な飛行機雲に出会った。付近は快晴、仰角 10° 付近に現れた飛行機雲は、末端は消えていたものの、計算上は常に長さ 50 km 以上の長大なものだった。



飛行機雲は、ジェットエンジンの後ろに形成される。従って、航空機のすぐ後ろの、形成直後の雲を見ると、エンジンの数がわかることがある。



望遠レンズで撮影すると、この航空機は、4 発ジェット (4つのエンジンを持っているジェット機) と、

はっきりわかった。最近の航空機は燃費や運航コストの関係で、2 発ジェットが主流だ。(一時期は、トライスターのような、3 発ジェットもあった。) 今は、4 発機の飛行機雲は珍しくなった。日本の上空を飛ぶ定期航空路 (民間機) で、4 発エンジンの機種は、ボーイング 747 (ジャンボジェット機) と、エアバス A340 だけである。4 発ジェットの利点は、抜群の安全性である。4 つのエンジンのうち、仮に 3 つが故障して停止しても、残った 1 つのエンジンだけで、安全に飛行が続けられるように設計されている。

ボーイング 747 は、日本の航空会社の旅客機からすでに引退していて、貨物機しか残っていない。ルフトハンザなどは、今でも 747 の旅客機が乗り入れている。この飛行機雲の主は、真下から見た画像の形状やエンジンの位置から判読すると、エアバス A340 の機体とわかる。この時刻 (正午前) に本州上空を、東から西に飛ぶ A340 機は限られている。航空時刻表を見ると、スイスエアーの LX161 便 (チューリッヒ行) に、ほぼ間違いないだろう。そう推理すると、垂直尾翼の赤い印は、スイスエアーの赤いロゴに見える。



「スイスエアーのエアバス A340」 エンジンの位置、機体の形状、水平尾翼の形状などが一致している。

(スイスエアーのホームページより)

飛行機雲の詳しい観察から、機種や便名まで推理できるのは、とても楽しいことである。「できたて」の飛行機雲に出会ったら、双眼鏡や望遠レンズで、エンジンの後ろを見てほしい。4 本の雲ができていたら、「ラッキー飛行機雲」である。(つづく)